

育てた野菜で披露宴を彩る

農園ウエディングが人気

オークビレッジ柏の葉

昨年4月にオープンした千葉県柏市の「オークビレッジ柏の葉」で行われている農園ウエディングが話題を呼んでいる。新郎新婦が結婚式の何か月前から野菜を育て、その野菜を婚礼料理に利用。併設のレストランで個性あふれる披露宴を行う。運営するのは社会体験施設「キザニア」を手がけるK CJグループ（住谷栄之資社長、東京都中央区）で、新しい生活を始めるカップルに、生きる源である食について、あらためて考えてもらおうのが狙い。

オークビレッジ柏の葉は、東京・秋葉原からつくばエクスプレスで約30分の「柏の葉キャンパス」駅から徒歩1分という好立地にある。駅前でありながら「食」と「農」をコンセプト

の話題の農園ウエディングだ。特徴はなんと言っても新郎新婦が育てた野菜を婚礼料理に使用し、ゲストに振舞うこと。まず、結婚式を予約したカップルは、料理の内容や育てる野菜などをプランナーに相談。敷地内の農園にふたりの専用農園が用意され、週末や仕事帰りなどを利用して野菜を育てていく。大事に育てられた野菜は婚礼料理に使用。なかには野菜作りの様子を写真や動画で残し、披露宴で公開するカップルもいる。

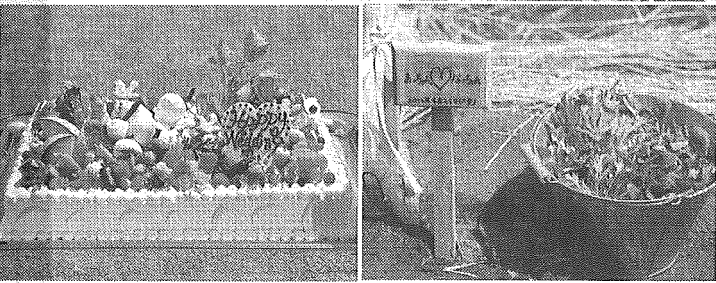
これまでも自分達で育てた野菜を婚礼料理に使用するスタイルの結婚式はあったが、畑は披露宴会場とは遠く離れた場所だった。同施設は会場の隣に農園があり、ゲストが訪れることもできる。のどかな農園風景の中で記念撮影を行うカップルも多く、花嫁が動きやすいように丈の短いドレスも用意している。なかには農園にトラクターを持ち込み、その前でウエディングケーキに入刀するケースもあった。「自分達らしい個性的な



結婚式をしたい」といったオリジナルウエディングはいまや結婚式の主流。その個性を列席者への感謝の気持ちを表す手段として、時間をかけて結婚式をつくりあげるように「野菜を育て

る」という過程が受けているようだ。前年度、農園ウエディングを行ったカップルは20組。20代後半から30代が中心で「人と違った珍しい結婚式がしたい」と、農作業を経験したことがないカップルも多かったという。同社では今年、挙式や披露宴、2次会などを含め、年間100件を目標としている。

農園の通路は芝生なのでドレスも歩きやすい」「ふたりで育てた野菜をゲストに食べてもらえるのがいい」と評判。式の当日に野菜を収穫（右）農園をイメージしたオリジナルケーキも人気。入刀式はのどかな農園でも行える



などを含め、年間100件を目標としている。